

甲斐駒ヶ岳・早川尾根・鳳凰三山縦走

3日目(11月24日)

早川尾根小屋 ～ 鳳凰三山 ～ 夜叉神峠

起床	3:00	
早川尾根小屋	5:30 発	
広河原峠	6:00 着	
赤薙沢ノ頭	7:00 着	7:10 発
白鳳峠	7:40 着	
高嶺	9:00 着	9:10 発
赤抜沢ノ頭	10:00 着	
地藏岳往復		
赤抜沢ノ頭	10:50 発	
鳳凰小屋への分岐	11:30 着	
観音岳	12:10 着	12:30 発
薬師岳	12:50 着	
南御室小屋	13:40 着	14:00 発
苺平	14:30 着	
杖立峠	15:30 着	15:50 発
夜叉神峠	16:40 着	
夜叉神峠登山口	17:30 着	

前日の到着が遅くなって就寝も9時過ぎになってしまったが、3時に目覚ましをかけて起床したら、三枝はすっかり回復したようだった。三枝の調子が悪かったら下山するつもりだったが、予定通り行けそうだったので、朝食をしっかりと食べて5時半に小屋を出た。例の夫婦は私たちよりも30分前にすでに出発していた。

この日は天気が崩れる予報だったが、小屋を出ると満天の星だった。しばらく樹林帯の中を進むが、時折木々の間から北岳が暗がりの中、うっすらと見える。順調に進んで広河原峠に到着。睡眠不足気味だったが二人とも調子は悪くないので、休まず先へ。



きれいな早川尾根小屋。営業小屋だが、ありがたいことに期間外は無料開放している。



早川尾根小屋の入口

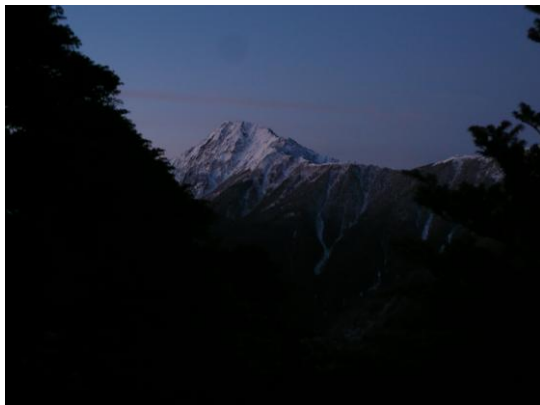


樹林の間にうっすらと北岳が見える

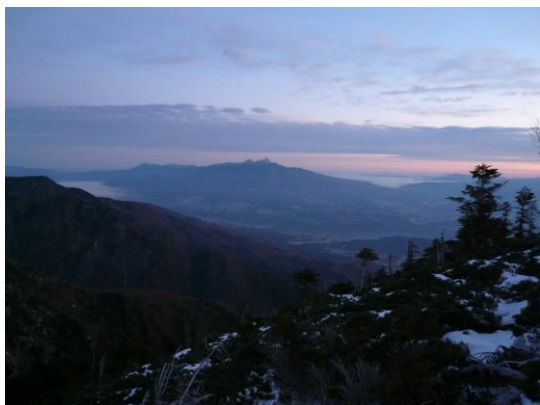


広河原峠

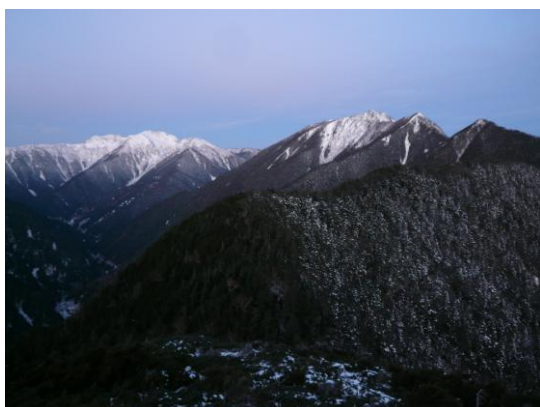
広河原峠を過ぎたあたりから空が明るくなり、周囲の山々がくっきり見えるようになった。左手には八ヶ岳、振り返ると昨日歩いた甲斐駒ヶ岳や早川尾根に仙丈ガ岳。右手に大きく見える北岳はため息が出るほど見事だった。相変わらず樹林の中を道が続くが次第に雪が少なくなり、開けた赤薙沢ノ頭（2553m）に到着。



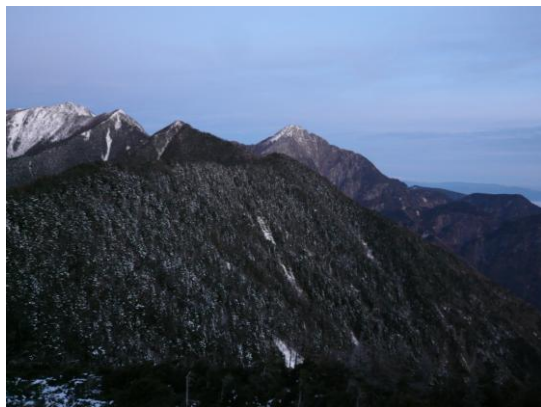
北岳



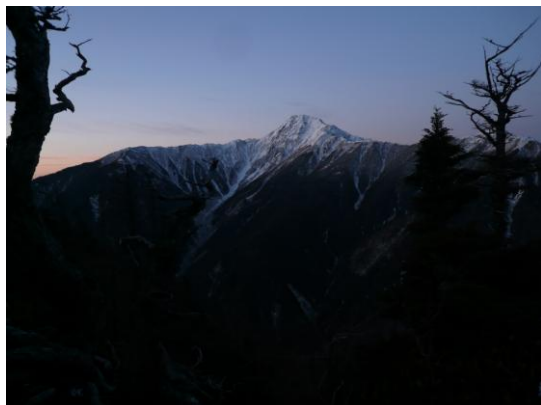
八ヶ岳



仙丈ガ岳（左）と早川尾根（右）



甲斐駒ヶ岳（中央）とアサヨ峰（左端）



北岳が大きい



樹林の中を進む



朝焼けの南八ヶ岳



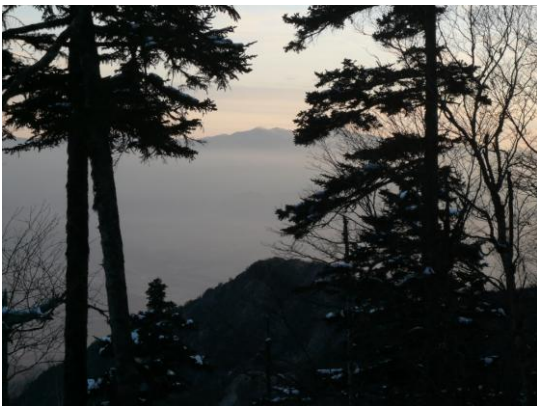
朝日に染まる北岳



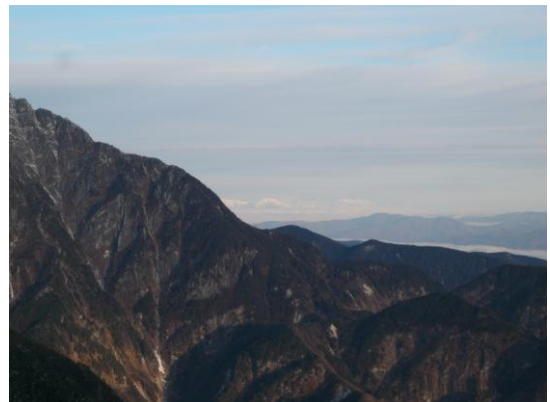
北東の眺め。中央やや右は奥秩父。



北の眺め。中央は八ヶ岳。

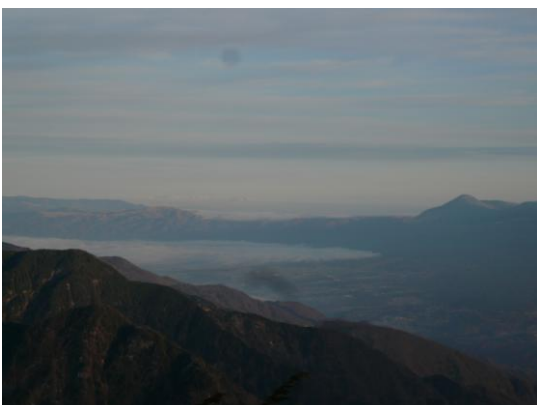


左手には奥秩父も

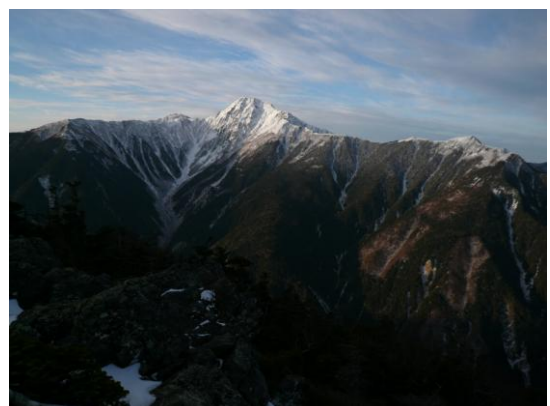


遠くには、真っ白な白馬連峰も

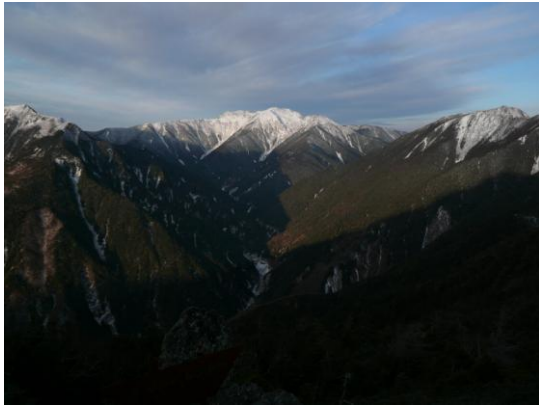
赤薙沢ノ頭では大展望を味わいながら小休止。上空高く薄く雲がかかっているが、遠く妙高や白馬まで見える。



遠く妙高山や火打山も見える（中央付近）



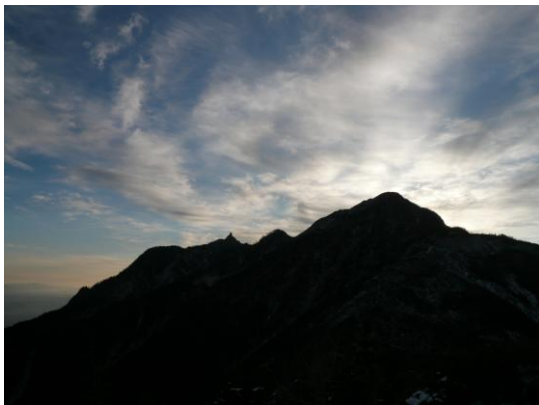
谷一つ隔ててみる北岳は本当に大きい



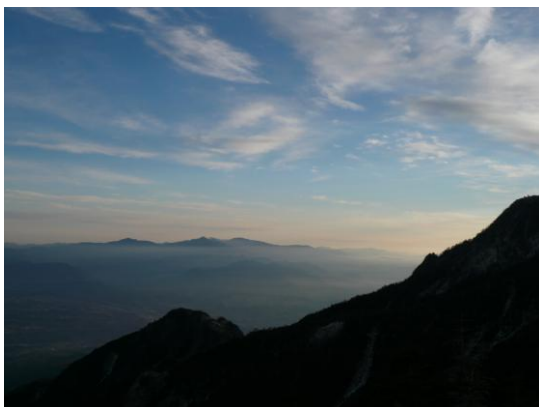
仙丈ガ岳



甲斐駒ヶ岳（右）とアサヨ峰（左）



東の眺め。右は高嶺(2779m)、中央のとがったのが地藏岳のオペリスク

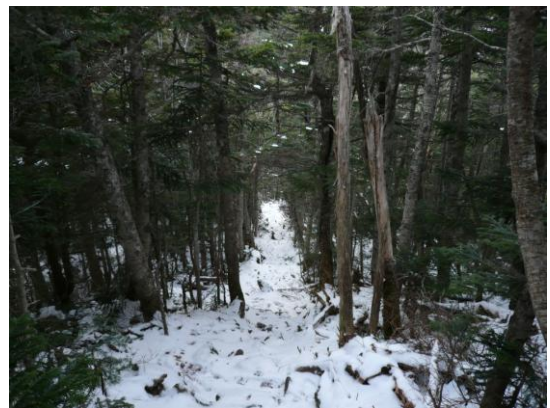


奥秩父

赤薙沢ノ頭からの大展望に名残はつきなかったが、この日も非常に長い行程なので、重い腰をあげて再び樹林の中の道を進み、程なく白鳳峠に到着。



正面に高嶺を望みながら進む

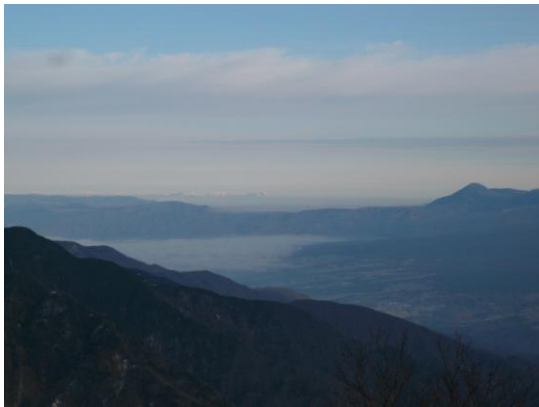


原生林の中を進む

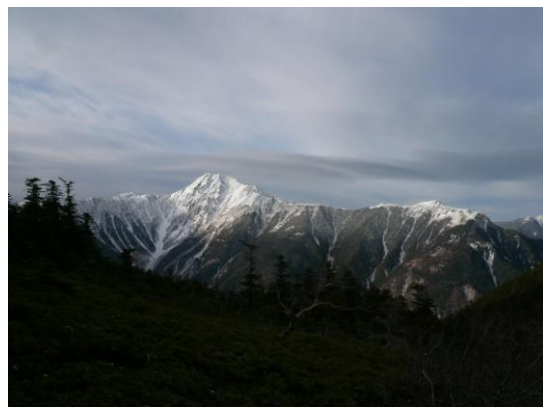
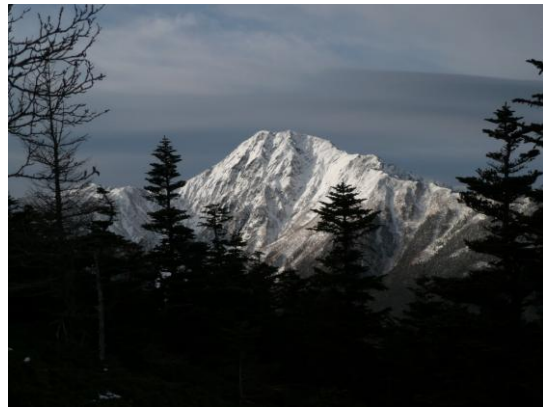


白鳳峠

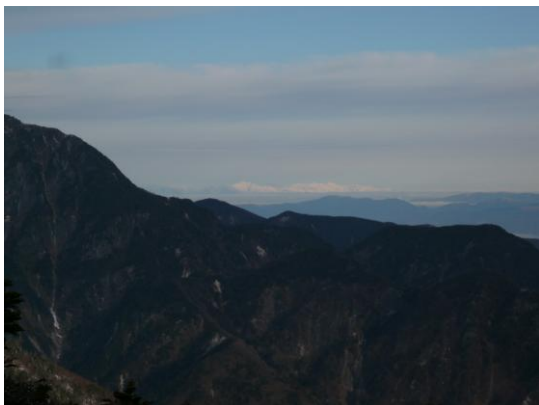
白鳳峠から樹林帯を少し進むと森林限界を超え、ハイマツが密生する中に背の低いダケカンバが散在する景色に変わり、再び大展望が開けた。赤薙沢ノ頭で眺めた時よりも、妙高などの頸城連峰や白馬連峰など、遠くがさらにくっきり見えるようになっていた。数歩ごとに立ち止まっては景色を眺めていたのでなかなか進まず、コースタイムをかなりオーバーして高嶺に到着。



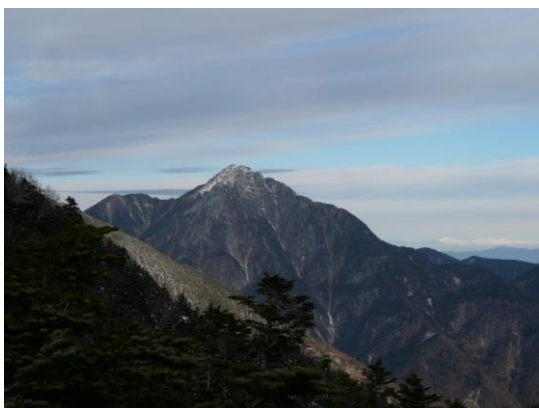
妙高山や火打山など頸城連峰がくっきり（中央）



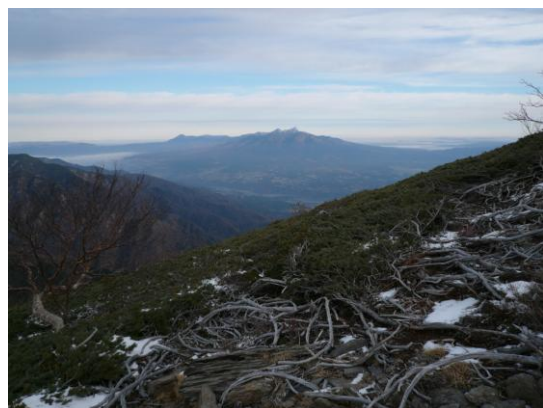
北岳と小太郎尾根（右の稜線）。下から小太郎尾根経由で北岳に登ってみたいという気にさせられる。



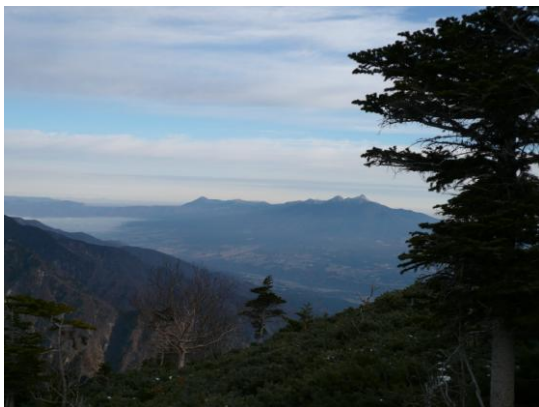
真っ白に輝く白馬連峰



甲斐駒ヶ岳。甲斐駒の左の肩が駒津峰。



ハイマツの密生するなかを進む。中央は八ヶ岳。



八ヶ岳



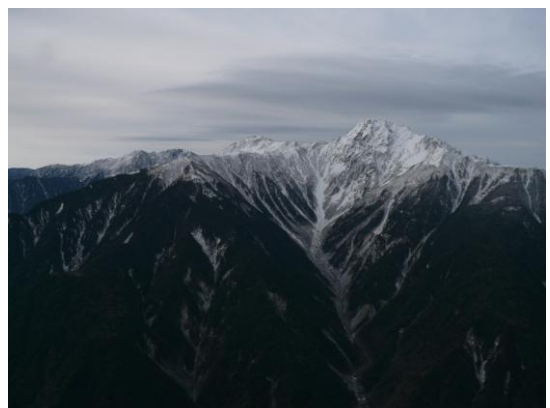
赤薙沢ノ頭を振り返る



甲斐駒ヶ岳と白馬連峰



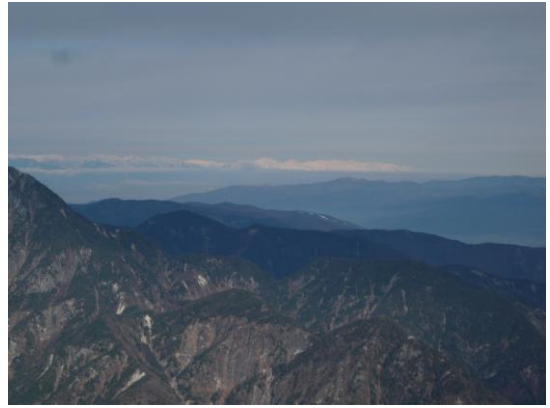
甲斐駒ヶ岳と黒戸尾根。右は八ヶ岳。



白峰三山（右から北岳、間ノ岳、農鳥岳）



白峰三山から南に連なる白峰南嶺も歩いてみたい



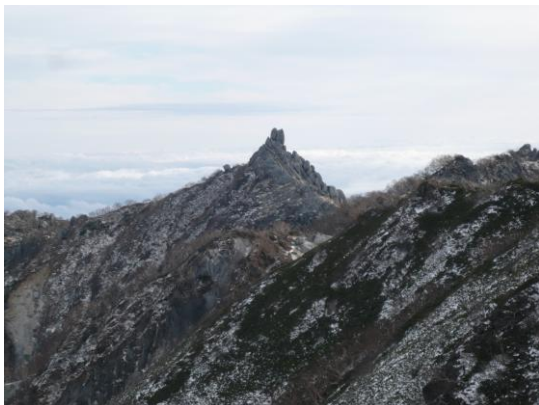
北アルプス北部



南の眺め。中央は筑ガ岳。

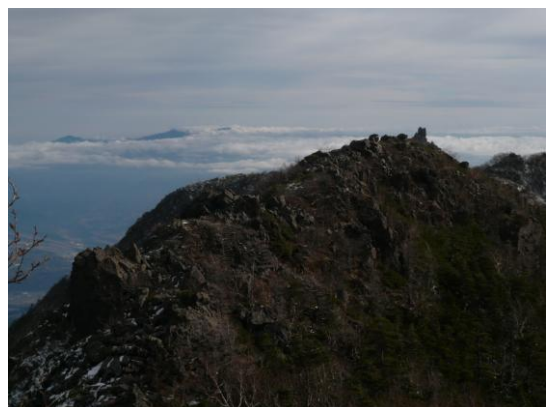


ようやく高嶺山頂に到着

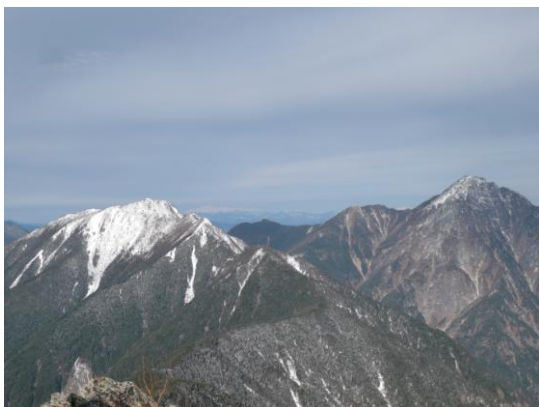


地藏岳のオベリスクが大分近づいてきた

高嶺で小休止を取り、鳳凰三山へと向かう。上空の雲が厚くなり、北アルプスはまだくっきりと見えるものの、奥秩父は下から上がってきた雲に隠れようとしていた。天気が崩れるのも時間の問題となってきた。



奥秩父は下から湧きあがってきた雲に飲み込まれようとしていた



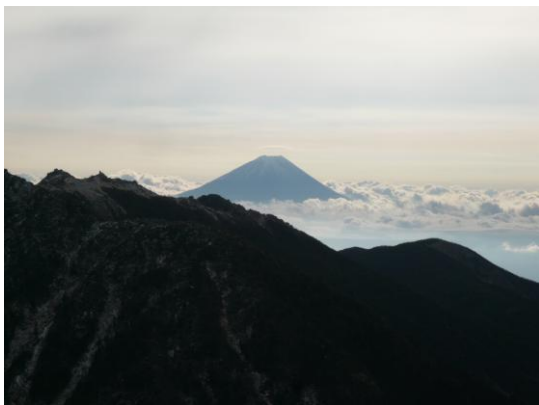
この角度から見ると、アサヨ峰もなかなか立派（左）。右は甲斐駒ヶ岳。中央遠くには乗鞍岳がうっすらと見える。



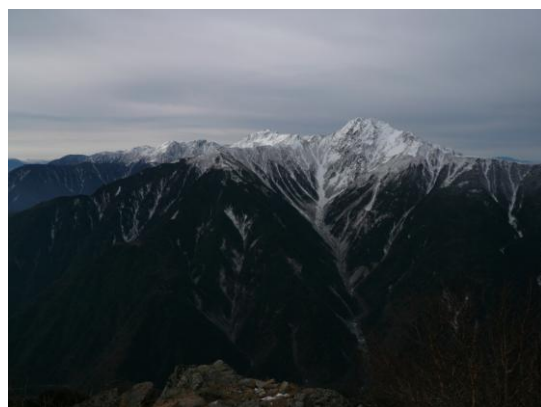
中央は鳳凰三山の最高峰、観音岳(2840m)。左は地藏岳(2764m)。



黒戸尾根ー甲斐駒ヶ岳ー駒津峰ーアサヨ峰ー早川尾根と、歩いて来た尾根道が見渡せて、感慨深い



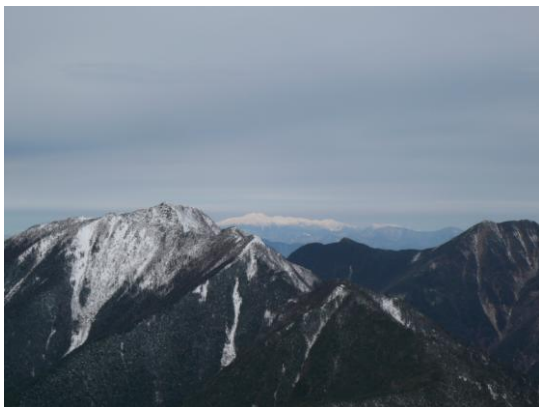
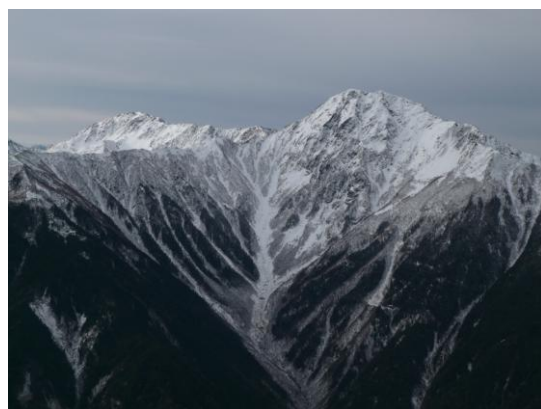
富士山頂上の上にはかわいらしい笠雲



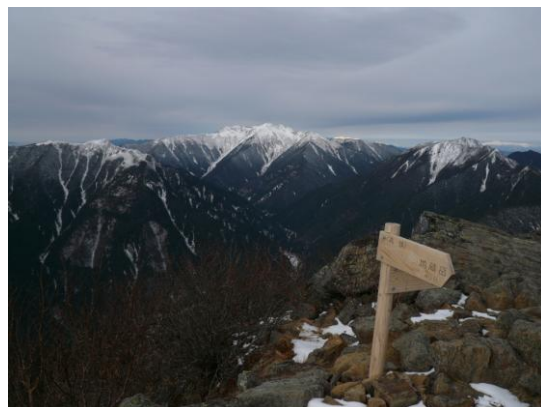
高嶺から眺める白峰三山



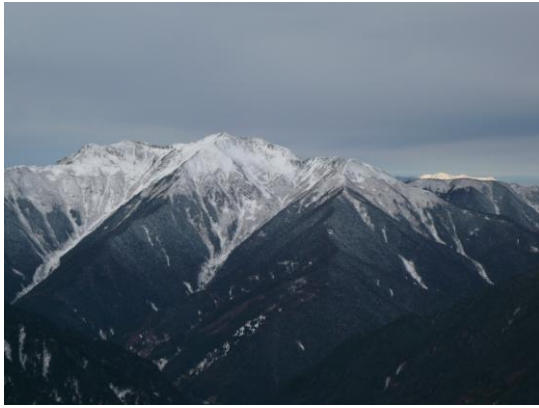
南の眺め



乗鞍岳遠望（中央）。そのすぐ左はアサヨ峰。



仙丈ガ岳



仙丈ガ岳の向こうには御嶽山（中央右）



高嶺山頂の様子

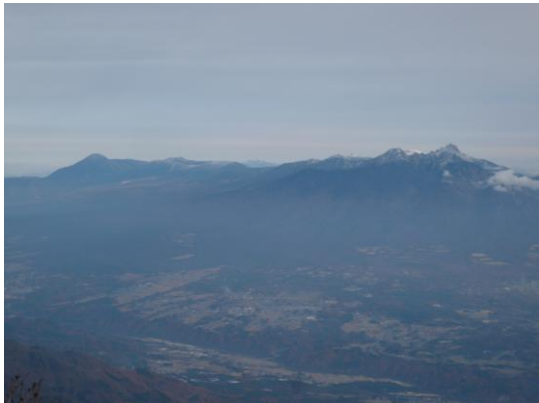
高嶺からは痩せた尾根の稜線歩きとなる。進むにつれてさらに雪が少なくなる。やがて白砂が目立つようになり、赤抜沢ノ頭に到着。荷物を置いて、目の前にそびえる地蔵岳のオベリスクに向かう。



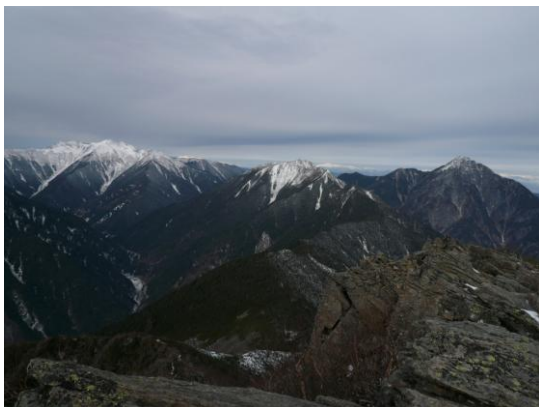
妙高山周辺はますますくっきりと見えるようになってきた



高嶺からは痩せ尾根を行く



赤岳（右端）から蓼科山（左端）まで連なる八ヶ岳連峰





白砂が目立つようになる



赤抜沢ノ頭



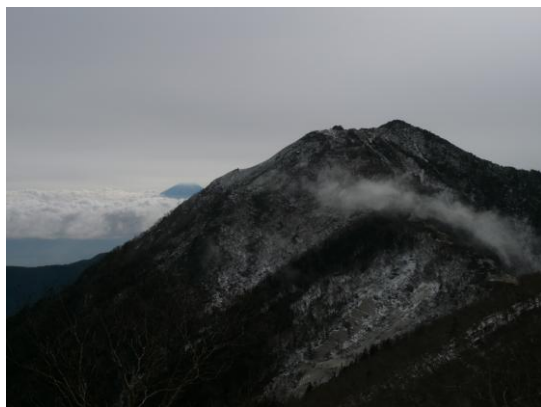
荷物を置いて地藏岳のオベリスクに向かう

ところどころにたくさんお地藏さんが並んでいた。オベリスクをよじ登ってみると、てっぺんの1枚岩にロープがかかっているように登れるようになっていたが、疲れで手脚に力が入らないので、無理をしないでてっぺんに登るのは次回以降の宿題とすることにした。地藏岳を往復している間にさらに雲行きが妖しくなり、東の方からどんどん分厚い雲がこちらに広がり、鳳凰の稜線にも雲がかかり始めた。



お地藏さんがたくさん並べられている





鳳凰の稜線に雲がかかり始めた

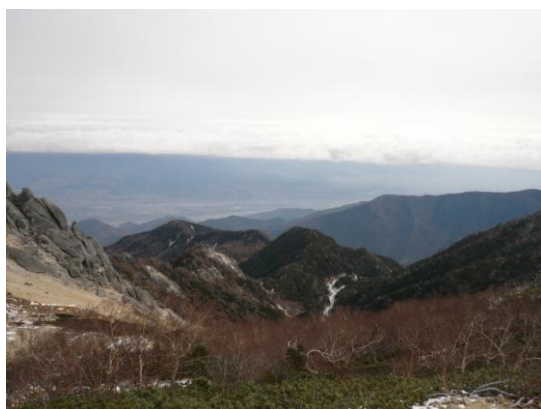


オベリスクを振り返る

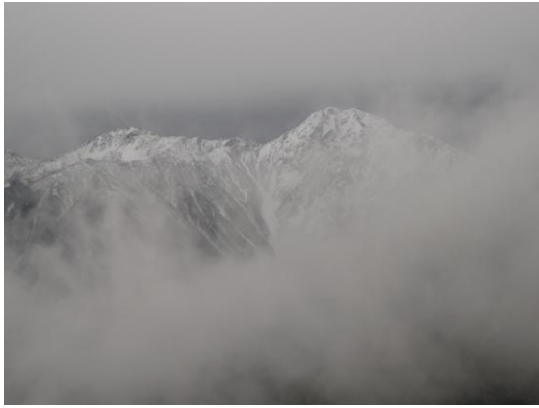
ピークからこのようにロープがかけられているが、今回は断念。



慎重に下る



東の方から分厚い雲がどんどん迫ってくる



オペリスクを振り返ると、まるで恐竜の背中のようにだった

赤抜沢ノ頭に戻り、荷物を担いで観音岳へ向かう。青木鉱泉・御座石温泉方面への分岐点で、この日初めて登山客とすれ違った。この日出会った唯一の登山客だった。分岐から観音岳へ登っている途中、三枝が「あんなところに人がいる！」と指した遠くの岩場をみると、カモシカだった。カモシカはこちらをじっと見つめていたが、やがて悠然と岩場を下ってダケカンバの林の中に姿を消した。

ダケカンバの散在するガレ場を登って行くと、程なく観音岳山頂に到着。鳳凰三山最高峰（2840m）にしては、すこしさびしい感じのする山頂だったが、天気が悪いからそう感じたのだろうか。



観音岳を正面に見ながら進む



白砂と岩場が交互に現れる



分岐点への下り



御座石温泉・青木鉱泉方面への分岐



遠くにカモシカが立ってこちらを見つめている（写真中央）



観音岳山頂までもう少し



分岐から観音岳の登り道にはダケカンバが多い



鳳凰三山の最高峰、観音岳の山頂



昨日に懲りてこの日は水分（お湯）をこまめに補給したのでテルモスが空になってしまった。観音岳山頂で休憩がてらお湯を沸かし、薬師岳に向かう。ここからはずっとゆるやかな下りになるので、目的地の夜叉神峠まで距離はあるが、気持は少し楽になった。

観音岳からほとんど平坦なハイマツ帯の尾根を緩やかに下って行くと、広々とした薬師岳山頂に到着。そのまま通過して、少し下ると、奇妙な形のダケカンバの大木が茂る樹林帯の中に入った。

程なく薬師岳小屋の前を通過したが、小屋の主人に声をかけられ、少し雑談になった。最近の登山者

のマナーが悪いと、愚痴をこぼしていた。この連休中に、ジーパンにスニーカーで登ってきて道を訪ねてきた若者がいたらしい。また、指定場所以外にテントをやたらめったら張るから雷鳥が姿を消したんだと、かなりご立腹だった。



観音岳からもハイマツ帯の道が続く



観音岳から薬師岳まで緩やかに下っているものの、ほとんど平らで歩きやすい。





広々とした薬師岳山頂（2780m）



地を這うダケカンバの大木



この林のダケカンバはみな、奇妙に幹がよじれてた



薬師岳は休憩せず通過。山頂から下りになる。



このあたりが森林限界



薬師岳小屋。ここの主人と雑談。

小屋から少し行くと、再び砂地なる。巨岩がたくさん転がっていた。ここからは完全に樹林帯の中の

道となった。緩やかに下って行くと、雪が降り出し、南御室小屋に着くころには本降りとなった。小屋の手前の木陰で休憩していると、小屋の主人が出てきて、「今日はどこまで行くのか？」と声をかけられた。



巨岩が転がる



この岩の横からは完全に樹林帯の中の道となる



南御室小屋



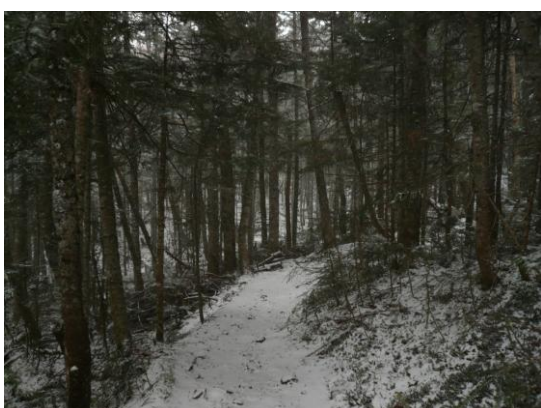
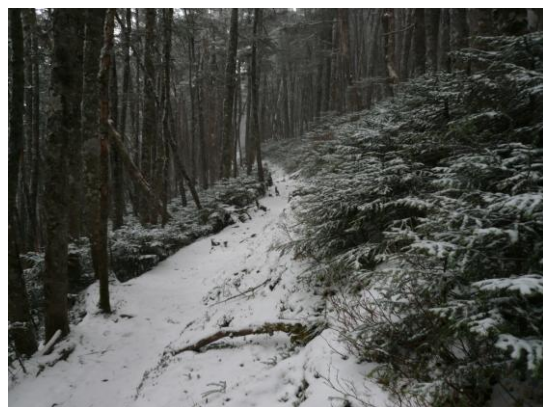
南御室小屋のテン場



雪が本降りに

小屋からは、夜叉神峠まで緩やかな道をひたすら下るだけだった。道にうっすらと雪が積もり始め、人の足跡を消してくれたの。しんと雪の降るなか静かな深い原生林の道を黙々と歩くのは何とも言えない気分だった。

途中、杖立峠でお湯を沸かして休憩した他は休まず歩き続けたが、夜叉神峠に着くころにはかなり暗くなっていた。峠から林道に下る間に真っ暗になり、雪から雨になった。そして夕方5時半、ゴールの夜叉神峠登山口に到着。大変充実した山行が終わった。蕪崎駅からタクシーに迎えに来てもらい、高尾方面の電車に乗り込んで家路についた。





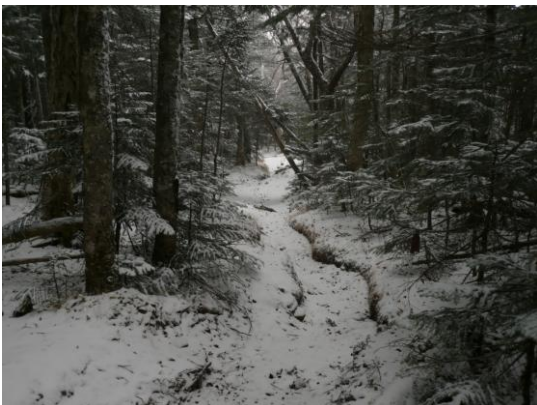
莓平



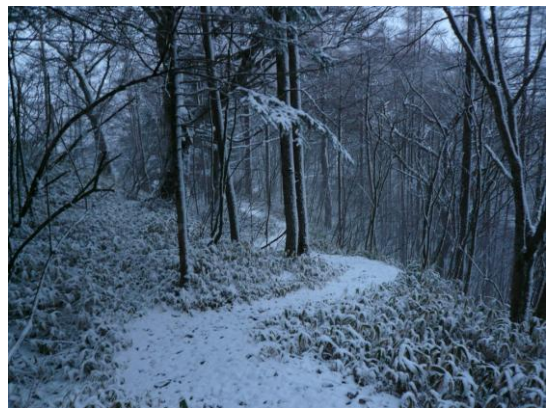
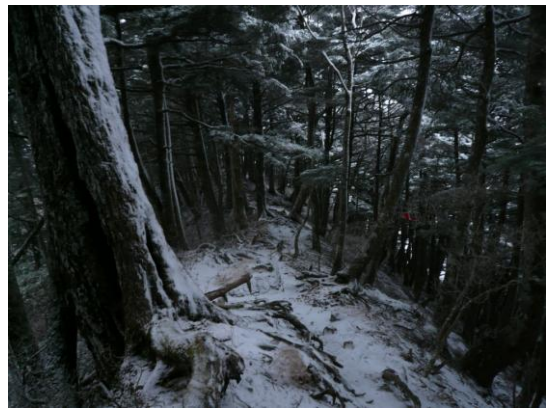
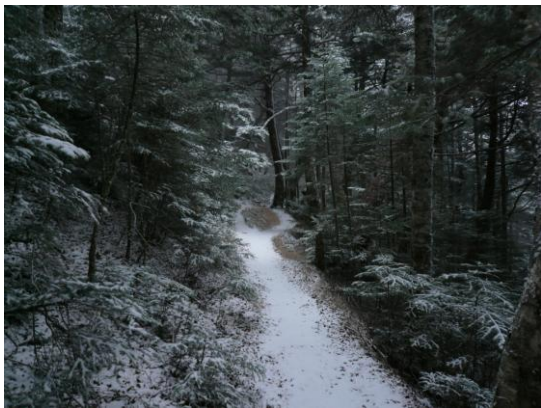
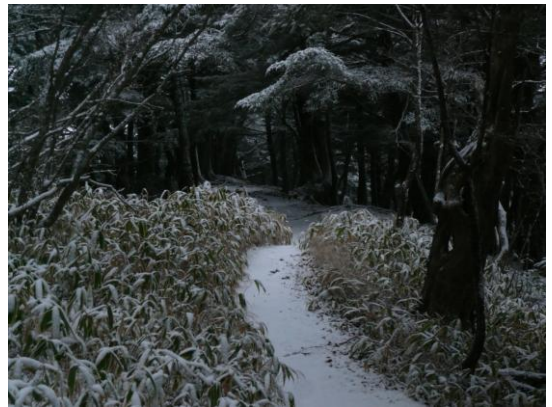
千頭星山、甘利山方面への分岐



少し開けたところに出た



テントが張ってあったが、人には会わなかった



杖立峠

4時を過ぎ、薄暗くなってきた



ようやく夜叉神峠小屋が見えてきた



夜叉神峠



夜叉神峠小屋



林道へ下る分岐



林道の夜叉神峠登山口に到着。大変充実した3日間の縦走が終わった。タクシーを呼んで葦崎まで運んでもらい、中央線に乗って家路についた。